

39 明治11年7月6日 菊池長閑

第五号七月六日

第四号四月五日出五月十八日達せりお福縁組宅命不同意云々承知せり同人よりも貴様之存意ニ任可申と申来不同意と察居差向貴様よりも申来次第なれハ御祖母様も一時ハ残念ニ思召候得共又内和同土取遣りよしあしなと御尊も有之候間強而掛念致間敷候右ニ付お波事も宅命申遣ニ生涯之楽ミなきと云はれてハ難黙止乍去此方多押付たるニ非ず大槌通出役中亨も御用ニて来り旅宿に於て本宿より言出たる約束なれハ亨死後ハ猶更取戻し此方より難申出且最早東京へ引越之場合ニ差迫りたれば如何共難致且極秘密之事といへ唯々我独内心苦むのミ此度引越ニ付而もお波心懸大切なれハ於福縁組貴様不同意之趣意を譬にして如何様之事も辛抱して勤可申其中ニハ貴様も帰朝添心もあるへしと云含遣候扱々^(困)入り果たる次第ならずや時変之する所ながら殆ど当惑歎息之至也帰朝之上ハ何分能^(抹消)様^(抹消)お波^(抹消)「^(抹消)教示^(抹消)」義幾重も世話いたし呉候様頼入候にて右事件ハ家内ニも口外不致置候「待合□東之事委敷報知毎度新聞珍ら敷扱々重宝之事とも也切手も落手せり第五号四月廿日出五月廿八日達藤田多後妻お福

事申遣ニ付前文之趣申送候様承知せり御病人も此節自由ニ御歩行手前ニも折々御出ニ候へ共御血色ハ未タ御平常之如くならず彬郎も五月初ニ帰県之積之処種々懸合之御用嵩とて未タ不帰不都合之事のミ有之候」第四号ニ申遣候次男政国早速引取可申処無拋事之ミ有之差延漸去月十日を吉日と定メ引取結婚相整候夫婦中も睦敷第一安心いたし候未だ日も浅けれハ善悪難見究候へ共一体実体ニ而當時之壮年輩にしてハ如何ニも珍ら敷鎮台ニ八年在職したる者とハ思はれぬ位ニ候貴様ニも安心可被申候」本宿家族も去月一日此許出發同十一日ニ無事安着之電報来り住処芝森元丁老丁目九番地借宅之趣折々文通有之候」去月一日ヨ三十一日迄内丸元三戸邸内ニ而博覧会場取開新ニ六間ニ卅間計一棟を設立中仕切して前後^(二)例ニ出品陳列なり古書画を初古器珍物並列之積なれとも目を驚し書立報知するへき程も不見得東京大店古道具や同然也甚敷ハ銘作ニもあらぬ皮製之甲冑或ハ二重緞子山路ある踏込等も見者切手を買入る老一枚一銭ツ、大凡二万枚と見込たる処存外在方者出懸七万余枚売たる由公園地ニハ見世物茶や等出張し始ハ^(抹消)「^(抹消)無代^(抹消)価^(抹消)」地処無税ニ而貸布達なるか中頃ニ至り一坪ニ付一日五厘之出税となり見世物或ハ焼餅位ハ兎角間ニ合たるよし即席御料理を始そはや或売物店等ハ更ニ入来る者なく大ニ見込違となりたるよし実ニ釣出しも同然之所為也県官ハやもすれハ当地方之者野蠻々々と口癖ニ申ハ如此虚談いたしハ文明なるや致堂様御墓參御願濟ニ而御前様御同道五月廿日此元御着我等ハ郡山まで御迎之心組にて出懸たるに十日市にも不行ニ最早日詰

御着之報有之無拠於途中待上上居其処ニ而御出迎いたし候一昨
 年利恭君御下りハ御出迎之者倍増ならんと思之外不人数仙北
 町辺も淋しかり也と相聞得候何等之訳なるや五月廿五六七日と
 桜山御宮御祭礼御直祭ニ付助合相蒙り廿三日ハ五日間日参廿九
 日ハ靈承廟御正忌日旧四月十四日ニ当る御相当ニ付是又御直祭ニ付是も助
 合相蒙相勤六月五日御二所様此元御発車ニ而鹿角鉾山エ被為入
 是ハ岡田某ニ而取行たるに何等之子細あるや其向より内々噂も
 有之よしニ而利恭君ニ而試御取行御願立昨秋より御引受ニ付実
 施御検査之積なる趣鉾山ハ金銀或ハ銅にても何にても年来其術
 ニ熟練者ならハ一度其山之模様見分しても善悪了解なるへきニ
 不案内之者なトハ一時見分するとも知れるものニあらざるよ
 しなれハ幸信民も下る故御名代ニ同人被遣る方上策と被考に
 其事担任之山本波岡等之処ニ而然らず尤右山ハ御旧領而已ニあ
 らず旧秋田領もあるよし御通車之砌ハ御旧領ハ簞食壺漿するハ
 素ガ当然之事旧秋田領ニ而は御通駕を見ると山師タノ何タノと
 悪口申たるよし随従之輩極秘して居と聞得たり味噌を付たる失
 策ならずや夫より三戸三光寺御墓拜八戸領へ御廻りにて六月廿
 日御帰り也然ニ三戸素行式部殿事也始あれこれにて御招請申上ニ付
 頓而我等も願たる処廿六日之御日取ニ成此節海魚ニハ一切可用
 魚無之川物とても美鯉丸太鮎鳥類ハ鶉鶉家鴨ニ限り鱧鱈ハ口加合在リ
 之廿二日ハ御統中ニハ午前午後と一日ニ二軒エ御入なれハ
 香肴珍味ハ皆人之尽たる後ニ成り且又廿六日ニ午前ハ山辺氏午
 後ハ手前ニ而二座之御饗応猶更迷惑庖丁家も其術ニ当惑之景色
 なれハとんと趣向を替へ茶人を雇真之会席エ濃茶薄茶奉る設を

し廿五日ハ庖丁家を雇ひ手配いたし居り夕刻庖丁家も引取跡エ
 真之会席ニ而ハ不都合有るへしと内々心付る者あり其事出処ハ
 新庄女中之噂ニ云々と申事なれ共其実御前様之思召ニして相聞
 得たるもあれハ何分当惑乍去最早七分通手配出来之上今更捨る
 もならず乍残念無拠差懸模様を替へる事ニ成り調之外ニ二品足
 加ハ御腕を前後ニ出し候事ニ調直たり後ニ聞ニ御供之女中共之
 気量にて御上方之思召ニ無之よし甚残念至極也其日之第一之御
 馳走ハ舟越百助之手簡之懸物は是に添へたる茶杓也花入ハ借物な
 れとも是も随分珍ら敷品なり式なれハ始会席次茶といふ順なれ
 共御夜食兼帯なれハ右順を替へ始茶次会席といたしその手順大
 略左の如し

本座敷飾

床ノ間三幅对椿年筆チン

右 春草花 右 三方長のし

中 草刈三分 中央阜香炉 唐銅鶴鴿蓮葉

左 秋草花 左 文台料紙硯箱短冊箱入

床脇 陶器花瓶 草花数種取交指込む

一午後四時御入門前エ長閑政国御出迎長閑庭口エ御案内申上る

御座着之処ニ而

一桜湯 是ハ次ニ点茶を奉る為メ也且午前之御酒後ニもあ

れハ旁点茶を控て如此し

一御休息見計茶室十畳之部也エ長閑御案内申上勝手ニ入り茶室エ御

揃を伺濃茶菓子上る但御二所様成姫様栄枝様御四人也

一菓子 玉垂 楽焼小皿エ杉と黒もち之やうし二本ッ、附

右御菓子上ケ勝手口エ退座此処ニ而私茶事不案内故別人ヲ以奉る旨申上勝手口メ切る

一上田隆茶器持出座ニ着頃長閑茶室ニ入下座ニ扣隆茶を点し天目台ニ茶碗上るを長閑進て御上座エ上ケ元ニ復座御末座御吸切を伺勝手手エ引取此跡隆にて式之通取計

(注記1) 茶室飾

掛物 舟越百助文輪

風炉 土風炉也

釜 稻米雀之模様

高岑棚 白桐柁目

水指 楽炉不羨讚あり

(注記2) 茶入 水滴 袋 茶地金縷

茶杓 舟越伊予守作即前百助手簡添之

茶碗 錦光山焼

茶入 きね切 遠州流初代宗甫作

但花夕錦といふ舶来種かと思はるゝ

右畢て本座敷エ御復座煎茶并菓子上る

一菓子 鳥羽玉

献立

皿 甘酢 うろこ巻
きふり ミミこい
すそ うそ 吸物 じゆんさい
わらひ 薄味噌

口取 丸太かまほこ きみすし
木目いも

碗盛

半へんら うつら
わかい わか
さめけん さめけん

重箱

一夜ミそ漬 まるた

小椀

わか巻 松の実

肴

くき漬焼

御夜食

皿

いり會 こんやく
すかわり

飯

平

はつはいとうふ 玉子せん

夜ニ入御帰御出之節之通父子門前迄御送申上尤御帰之際真綿三百目献上御供ハ女中四人エ家従一人之処御用ある趣に而家従ハ直ニ引取御相伴一條友弥平塚省三也右之処へ信民奥通りより帰着之趣旅装まゝ来り少數狼狽之積なれ共御菓子始御上方分余計ニ見積置故事欠不申候此際ニ至り下り酒手ニ入是と茶にて御饗応いたしたる積思召ハ如何なるや難計候へ共信民之差懸来るも何か御嘶もあり却而御退屈なく緩々御帰りの御様子ニ而安心大慶いたし候本月三日御発車御帰京ニ付黒沢尻まで御見送申上」
百助手簡之類茶家ハ幾等もあれ共茶杓添茶杓ニ限たるニあらずハ実ニ稀なるものゝ由なれハ我等所持してハ只櫃底エ置蠹食ニ供するも残念なれハ思召ニ叶ふならハ献上致度御内慮候処其深切ならハ申受度と之御意之趣ニ而本月二日ニ献上候処東京へ御持込ニ相成候由黒沢尻御旅宿へ罷出候節右之御挨拶有之候間為知遣候」五月三日已来内外之多繁ニ打紛去月ハ一封も不出申訳無之候政因

が一封遣し候已後同人エ折節文通教示し親敷いたし候様頼入候也

武夫殿

長閑

第五号付属

再伸先般第二号エ我等一身上行末之事不計も申遣たる処懸念養生之義呉々も心付毎度忝候友達までもおくの配偶目当もなければ心付之通東京を探し外致方なくおすも貴様帰朝まで縁付されハ是も同様ニ可至さすれハ東西ニ向て世話をして可遣者こそあれ我膝元ニ在りて片腕と可頼者唯今分ハなければ今ニも千万不幸あらハ貴様留主中如何するへくと昼夜是のミ苦心不絶是か為メか精神も衰たる様ニ而実ニ不安より修業之差支も不願先の如く書綴申遣今更申訳無之千悔罷在候然処不凶も政国相談ニ相成未た心底見極も不付共弥安心之人分ニ而追々内外事相談相手ニ相成者ニ候ハ、我養生ハ此上もなき第一也貴様於も修業中心ニ可存と同察罷在候間我一身首事ハ心配致間敷四五年も内ニ置其中ニ資本を心懸け一家を為立度内存候右ニ付而も満年限ニ至候ハ、一日も不延帰朝呉々も頼入置也況や御祖母様ハ今日ニも帰朝為致思召書翰達毎ニ如何ニ〜と御尋ニ候于今天神三社仙北町虚空蔵久昌寺と毎月一日ニ御参詣是皆貴様之帰朝を御祈願也呉々も我等身上之義先般申遣たる事ハ打捨修業入精專一ニ可致以上

〔注記1〕

「百助手簡文昨日は御報披見申候御自分御事未声出かね肩之痛同□ニて御難儀之由察入候將又親伊予守茶杓一本御所望之由無抛かたへもらはれ只式本ならてハ無之候へ共御自分御所望ハ□少々之なしミの分ヶを以之事と致推察進申候此方ニ而ハ大筒一ツニ入置申間老本入之筒有合不申候間申付いたさせ近日従是可進候被仰越ニまかせ茶杓ハ先ニ進し候御請取可被遣候以上尚々近日筒可進候間それへ御入御所持可被成候我等悪筆ニ而候間筒之書付ハ同氏相人ニいたさせ可進候以上」

〔注記2〕

〔四月廿三日

中村新右衛門様 船 百助〕

〔封筒裏

「並米利加国ポストン府

ポートウイン。ストリート二十二番

〔武夫注記〕

菊池 武 夫 殿

要用報平安

〔封筒裏

「大日本岩手県陸中国盛岡

外加賀野八十六番

菊池 長 閑

七月六日発

〔武夫注記〕

「ANSJD」